

# 肺炎球菌ワクチン

青葉アーバンクリニック（2022年11月作成）

肺炎球菌とは肺炎や中耳炎、副鼻腔炎、髄膜炎の原因となる細菌です。大人の肺炎の原因としてこの菌が最も多く、約40%を占めます。また、肺炎球菌の感染症は重症化すると、髄膜炎や敗血症を引き起こし（＝侵襲性肺炎球菌感染症と言われる）、特に、高齢者や基礎疾患を持つ方に多く発症するため、致死率も高いといわれています。

肺炎球菌ワクチンは、大きく2つの種類（ニューモバックス、プレベナー）があります。97種類の血清型のうち、ニューモバックスが23種類、プレベナーが13種類の感染および重症化を予防します。これらの予防接種を受けることで、重症化や肺炎の予防が期待できます。

- ◆ニューモバックスは、65歳以上の方全員にお勧めします（→定期接種に含まれています）。
- ◆プレベナーについては、65歳以上の方で基礎疾患のある方や高齢者施設に入所中の方にお勧めしますが、接種すべきかどうかは個別に医師へご相談ください。

## <2つの肺炎球菌ワクチン>

ワクチン名	ニューモバックス (PPSV23)	プレベナー (PCV13)
ワクチンの種類	不活化ワクチン	不活化ワクチン
費用 (税抜き)	8800 円/回 *横浜市の定期接種では 3000 円 (初回のみ) *脾臓のない方は保険適応あり	13600 円
接種回数	5年以上の間隔をあけて接種可能	1回のみ (5歳以上)
接種方法	筋肉注射 (または皮下注射)	筋肉注射 (小児は皮下注射)
効果		
侵襲性肺炎球菌感染症の予防	約 50~80%	約 50%
肺炎の予防		
全ての肺炎球菌による肺炎	27.4%	30.6%
ワクチン血清型の肺炎球菌による肺炎	33.5%	45.6%
対象者	<b>【定期接種】</b> これまでに本ワクチンを1回も接種したことがなく、以下①②にあてはまる人は定期接種として1回接種できる ①2023年度末までは、該当する年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる方。 ②60~64歳で、心臓、腎臓、呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限されている方。ヒト免疫不全ウイルス (HIV) で免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方 <b>【任意接種】</b> 2歳以上で上記以外の方	<b>【定期接種】</b> 2か月以上5歳未満の小児 <b>【任意接種】</b> 5歳以上の全年齢
接種の推奨	・ <u>すべての65歳以上の方にお勧めです。</u> ・特に脾臓がない方、免疫を抑える薬を飲んでいる方、心臓や呼吸器の慢性疾患や腎不全、肝機能障害、糖尿病、慢性髄液漏のある方には強くお勧めします。	・65歳以上の方全員にお勧めされるものではありませんが、肺炎球菌感染症にかかるリスクが高い65歳以上の方で基礎疾患*がある、高齢者施設入所中などの方は医師とご相談下さい ・ただし、 <u>髄液漏、人工内耳、免疫不全 (HIV、無脾症、骨髄腫、固形臓器移植など)</u> がある患者さんは接種が必要です

\*基礎疾患とは、「慢性的な心疾患、肺疾患、肝疾患、糖尿病、アルコール依存症、喫煙者、脾臓がない方、免疫不全 (免疫を抑える薬を飲んでいる方を含む) のある方、など」を指します

## ◆副反応について

ワクチン接種による一般的な副反応（接種部位の痛みや腫れ）以外に、これらのワクチンに特異的な副反応報告はありません。

\*ただし、ニューモバックスについては皮膚の浅い部位に接種すると、接種後に皮膚のびらんや潰瘍が生じる報告がありますので、皮下接種よりも筋肉内注射をお勧めします。

## ◆2つの肺炎球菌ワクチンの接種間隔について

この2つのワクチンは、2つとも接種することで相乗効果が期待できます。

肺炎球菌感染症にかかるリスクが高い65歳以上の方は、適切な間隔で2つとも接種することをお勧めします。

先行ワクチンの種類	次のワクチンの種類	次のワクチン接種時に関する間隔・注意点
①ニューモバックス ➡	プレベナー	◆ニューモバックス接種後 <u>1年以上あけて</u> プレベナーを接種します
②プレベナー ➡	ニューモバックス	◆本邦では、プレベナー接種後 <u>6か月～4年以内に</u> （米国では1年以上あけることを推奨）ニューモバックスを接種することが適切と考えられています。 ◆当クリニックでは、原則として、 <u>プレベナー接種後1年以上あけて</u> 接種することとしております。ただし、脾臓のない方など、特殊なケースの場合に限り、 <u>8週間以上あけて接種可能</u> ですので、基礎疾患をお持ちの方は、個別に医師に相談ください

## ◆ニューモバックスの2回目以降の接種

ニューモバックスは上記の通り 5年以上あければ接種“可能”ですが、再接種による効果上昇が確認されておらず、再接種による副反応（発熱や接種部位の腫れ）は初回接種より比較的多いため、2回目以降の接種はお勧めしません。ただし、脾臓がない方は2回目までは接種をお勧めします。

## ◆2種類の肺炎球菌ワクチンの詳細に関しましては、下記QRコードをご参照ください

ワクチン名	ニューモバックス (PPSV23)	プレベナー (PCV13)
ワクチンの種類		

★ご不明な点がございましたら、医師にお気軽にご相談ください